

# 寺族会報

## 第 35 号

発行 令和2年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

電話 022-218-3801



ビーズプレスレット作製



ちょうずしゃ

大本山永平寺通用門入り口に新設された手水舎

# ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 我妻 有



全を確保出来る保証がなく、

止む無く中止とさせて頂いた

きました。そのため、令和二

年度の寺族永年功労者表彰の

皆様には、第一部集会におい

て表彰を受けることが出来ま

せんでした。止むを得ない事

情ではありませんが大変残念な

事でした。

例年、寺族会会費は総会の

折に集金させて頂いていただき

ましたが、総会が開催出来無い為

教区理事様より送金していた

だく形に変更致しました。

また、寺族会名簿も平成二十

七年三月の発行より五年が経

ちました。昨年度より経費の

節減と、宗務所補助金の増額

により、今年度の名簿発行の

計画を立てておりましたが、

次年度以降に持ち越しと致し

ます。

これまでの寺族会活動の法

灯を絶やすことなく受け継ぎ、

細々ながらも次世代に受け渡

す事が現時点での役目と思っ

ております。

脈々と続く変わらないもの

と、状況に応じて変えていく

もの中でどのような形が生ま

れるのか、寺族会に限らず私

達に問いかけています。

今後も皆様のご理解とご協

力のもと、寺族会活動を続け

てまいりますので、どうぞよ

ろしくお願い致します。

合掌

世界的な新型コロナウイルス

スの感染拡大の影響により、

『新しい生活様式』を実践し

感染予防に努める日々が続い

ております。

宮城県寺族会活動において

も例外ではなく、令和二年度

総会、第一回学習会、並びに

東北管区寺族会研修会は全て

中止となりました。各教区寺

族会も同じような状況です。

今後しばらくはこのような状

況が続くと思われまますので、

まずは安全を最優先とする中

でどのような形で寺族会活動

を続けられるのかを役員一同

手探り状態で模索しています。

昨年三十五周年を迎えた寺

族会活動の中で、総会を開催

出来ないという事は初めての

事でした。東日本大震災が発

生した二〇一一年度総会は、

日程と会場を変更して開催し

ています。今年は日程・会場

を変更しても会員の皆様の安

# ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

三田村 道 雄



大気澄みわたり、野山は紅葉黄花の季節を迎えました。

寺族の皆様には、常日頃、住職様とともに、お寺の法燈を護持し、檀信徒の皆様はもとより、地域の皆様とも交友を図られていることと拝察申し上げます。

昨年十二月「新型コロナウイルス感染症」が発生し、年が明け世界中に広がる中、国

内においては、四月に緊急事態宣言が発令され二密(密閉・密集・密接)を避けるため、外出の自粛・店の休業・学校の休校・イベント開催の制限等、普段の生活が制限される事となりました。

各寺院におかれましては、三密の感染症防止対策や、恒期法要の中止・内献、法事のキャンセルや家族のみといった少人数化、葬儀においても少人数等、大変苦慮されていることと存じます。コロナ禍がまだ終息の兆しが見えない

状況、当分の間はできる限りの感染予防対策を工夫し、寺院運営をしなければなりません。寺族の皆様には、ご住職様に協力し、ともに寺院運営につとめていただきませうようお願い申し上げます。



宗務所のアルコール消毒

宗務所行事につきましても、コロナウイルス感染症拡大防止の為、大勢の皆様が一同に会する行事は中止(現職研修会は延期)。また講習会・各委員会においては、三密に注意し開催しているところです。

県内においては、感染者が日々増えている状況です。今後も感染予防につとめ、宗務行政を展開してまいります。

寺族の皆様には、猛威を振るうコロナ感染の為、様々な活動が制限されておりますが、何卒、十分に健康に留意し、寺院の護持、檀信徒教化にお力添えいただきますようお願い申し上げます。

祈 疫病退散 早期終息

合掌

# 令和元年度第二回学習会

「ビーズブレスレット作製」

令和二年二月四日  
宗務所において

## 第二回学習会に参加して

第五教区 洞昌寺寺族 奥野直子



に参加出来ました。

講師に曹洞宗総合研究セン

ター専任研究員の久保田永俊

老師をお迎えし「ビーズブレ

スレット」の製作をしました。

久保田先生は東日本大震災以

降、被災地支援活動の一環と

して傾聴活動を行いながらビー

ズブレスレット製作を続けて

いるとの事です。

私も教区の寺族研修会で作

成した事がありどんな風に作

ろうかと悩みながらも、皆さ

んとお話をしながら楽しく製

作する時間を過ごし、お檀家  
さんにも興味を持って頂き、  
取り組み易い教化素材になる  
のではないかと感じました。

講義では数珠の起源に始ま

り珠の種類や数についてお話

を聞きました。珠の種類には

大きく分けて菩提樹の実、水

晶、無患子、金属、その他の

五種があります。

洞昌寺にはランドマークで

もある樹齢百年を超える無患

子の大木があり、今年も沢山

の実を付けました。講義を聴

きながら、百歳で逝去された

先々代の寺族様より無患子で

作った数珠を頂いた事や昔は

無患子の実で羽子板の羽根を  
作り、実を包む皮は洗剤の代  
わりだったと話していた事を  
思い出しました。

学習会の最後には、参加者

が思い思いの天然石と好きな

色のビーズを選び、楽しくビー

ズブレスレットを製作する事

が出来ました。完成したブレ

スレットを見せ合いながらお

話をする寺族様方の笑顔が印

象的でした。とても楽しく有

意義な学習会に参加させて頂

きありがとうございました。

合掌

令和二年二月四日、宗務所

研修場にて第二回学習会が開

催されました。まず、宗務所

に到着して目に入ったのが、

研修場に並べられたイスとテー

ブルでした。一教区宗禪寺様

からご寄進いただいたもので、

今回の寺族会研修会で使わせ

ていただくのが初めてという

ことで、とても快適に学習会

# ビーズブレスレット作製

第七教区 法圓寺寺族 根 來 有希子



立春の二月四日、カタカナ文字の題名に春の新しい風を感じて参加させて頂きました。講師の久保田永俊老師は千葉県のご出身。被災地の支援活動の一環として、このビーズブレスレット作製活動をされているそうです。

最初に数珠についての基礎知識として、起源や材料、数の意味などを教えて頂きました。数珠のお話は檀信徒の皆さんが興味を示し易いので、良い教化材料となるそうです。作製には二十二種類の色とりどりの天然石から一つと、アクリルビーズを二三色から選び組み合わせを使い、それらをシリコン製の糸に通し、環にして結ぶと完成です。

先生がおっしゃるには、天然石は経費のこともあって一人一個としているので、本当は二十二種類も用意する必要はないかもしれませんが、沢山の石が並んでいるのを見て『ワーケiley!』というワクワク感を持ってもらうため種類を多めにしているのだそうです。

まさにその気持ちを体感した私達は、休憩時間に天然石に群がり心弾ませました。

この活動を始めるきっかけは、被災地での傾聴活動の折、津波で大切にしていた宝石が流されてしまった女性の「私も何か綺麗な物を身に着けたのですが、何とかありませんか」と言う声からこのこと。

その時のビーズブレスレットはきつと大切な宝物になったことでしょう。私は綺麗な物を見て綺麗と感じ、楽しい時には声を立てて笑う、そんな小さなひとときの大切さに気がされました。

役員さんが用意してくださったおいしいコーヒーとお菓子を頬張りながら、お互いの作品を見比べ「この色も綺麗ね」「この組み合わせ素敵ね」と談笑した時間の楽しかったこと。私は一目見て気に入った深い赤色の赤虎目石を使わせて頂きました。

お帰りの新幹線の時間が迫っているにも拘わらず、ギリギリまで講習をしてくださった先生の熱意に厚く御礼申し上げます。大変有意義な学習会をありがとうございました。

# 令和二年度寺族永年功労者表彰

## 感謝

第二教区 妙心院寺族 葦名 深雪



この度の寺族表彰のご連絡をいただき、五十有年の年月を振り返り感慨も一入ひとしほでございませす。

まさに光陰矢の如し、忙しい中にも寺族として充実した時代であったと隔世の感がございます。

嫁いで間もなく「仙台駅東区画整理事業」が始まり、墓地移転や本堂・庫裡建設、昭和五十年の本堂庫裡落慶・晋山式（父）、平成元年には先住（夫）の晋山・結制、平成十七年は現住（息子）の晋山・結制と二代に亘っての大法要に参列出来ました仏縁をありがたく思っております。

父が宗務行政に携わっておりましたので、昭和五十八年の『宗務所寺族会』発足時より研修会等に参加させていただき、ご勝縁に恵まれました。地域・年齢を異にする集まりですが「寺族」という同じ立場の先輩諸姉・同年代の仲間達からたくさん学びを得ることが出来ましたのは、在家から寺に嫁いだ私にとって大変貴重で幸せなことでありました。

また宮城県沖地震や東日本大震災からの復興再建事業等、

特に寺族としての心構えや

檀信徒との関わり等、本堂建設や境内整備で住職を支え腐心された経験談は寺院繁栄の礎となられている姿であると感服させられました。

また、寺族会事務局運営に参加させていただいた折に、多くの方丈さまのご理解と会員の皆さまのご協力で二十五周年記念事業や「東北管区寺族会」発足に携わる事が出来ました事は、得難い貴重な体験でございました。

寺院を取り巻く環境がめまぐるしく変化している現代社会の実情の中で、これからの寺族の多岐に亘っての重要性を認識しなければなりません。

寺族会の活動が、更なる資質の向上を目指し仲間との絆を大切に「寺族になって良かった」と思える日々を送る為の研鑽の場となることを心より願っております。

先住が「孫を和尚に…」とお嫁さんに託した当時三歳だった孫が、令和二年二月大本山永平寺に上山いたしました。たまに来る便りに安堵しつつも、ご本山での修行を無事に終えて帰って来る姿を楽しみに、その時は元気で迎えることが出来るように朝夕ご本尊さまと歴住和尚さまに手を合わせております。

半世紀余り寺族でいることが出来ましたこと、先輩寺族さま方・お仲間です下さった皆さまに改めて感謝申し上げます。これからもお蔭さまを感じながら日々を過ごしてまいりたいと思えます。

結びに宮城県宗務所寺族会の益々の繁栄と会員の皆さまのご活躍をご祈念申し上げます。 合掌

# 寺族表彰を受けて

第四教区 智福院寺族 亀井郁子



この度は、永年寺族表彰を賜りまして、

様や地域の人達にも色々な力になってもらい感謝しております。これからも色々な相談をしながら寺族としてお寺を守っていききたいと心より思っています。また勉強もしたいと思いつても、また県の寺族様達とも仲良くしたいと思っています。今年、県宗務所寺族会も研修会、学習会などまたは教区、総会、移動研修「禅をきく会」(東北管区教化センター主催)など楽しみにしていましたが、残念ながら新型コロナウイルスの為に中止になりました。来年には、教区、宗務所寺族会が出来ます様に心から願っております。これからも、少しずつでも、良いお寺にする様に皆様の協力と共に支えあいながら頑張っていきたいと思っております。また一日でも早く、元の暮しが出来ます様心から願っております。来年も宜しく願いたします。

ありがとうございます。今まで長いあいだ支えて下さった皆様に厚くお礼を申し上げます。

私達は、東京から平成四年に宮城県名取にまいりました。東京から出た事のない私達で田舎の生活にはとても心配でした。特にお寺に入る事では、私に出来るかどうか心配の種

私達にお願いされました。まずは大本山總持寺様で得度の資格をとりに行きました。お寺の総代長始め総代の皆様に、お寺の事について分からない事はなんでもお聞きしました。早いもので問題もなく仕事をこなして、名取に来て三十年にもなりその中でも色々な事が有りました。楽しい事また大変な時もあり、でもお檀家

このたびは、寺族表彰をいただき心から感謝いたします。まことに有り難うございました。

合掌

# 寺族表彰を受けて

第七教区 善盛寺寺族 根 來 きぬ子



此の度寺族  
表彰を戴きま  
して大変有難  
うございます。

七十五歳の記念になります。

檀家さんが七十代になるとい  
ろいろ支障が出てきて大変と  
言っていた事を実感している  
毎日です。縁あってお寺に嫁  
ぎましたが、私の実家の墓地  
は家の近くにありお参りはそ  
こで済ませますし、お寺には  
小学校の遠足で一度行っただ  
けです。お寺は別世界のよう  
に思っておりましたので不安  
がありました。何とか皆さんに支  
えられて今日に至っております。  
この間本堂、庫裡建設が

行われました。本堂は大分前  
になります。庫裡建設のお  
話が出た頃、住職が急病にな  
り一時はどうなる事かと心配  
しました。何もわからずオロ  
オロしていた自分を思い出し  
ます。お陰様で病後十一年程  
度元気に過ごせましたのでそ  
の間に庫裡の建設が終わり後  
継者も修行を終え、今ここで  
生活出来る事に感謝しており  
ます。共働きでしたので留守  
番をしてくれていた義母には  
早くに先々住(義父)に先立  
たれましたがお寺を守ってき  
てくれました。先住(夫)が  
八歳の時です。大変な苦労が  
あった事と思います。先住が  
一人前になるまでの間は教区

内に居る伯父さんが兼務して  
下さり面倒を見て下さいまし  
た。義母は平成十九年に八十  
七歳で先住は平成二十八年に  
七十二歳で亡くなりました。  
今後は義母を見習って精進し  
て行きたいと思っております。  
合掌

## 令和二年度

### 曹洞宗宮城県宗務所寺族

#### 表彰者名簿

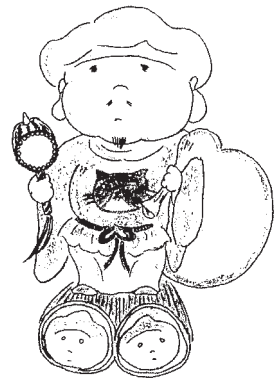
☆昭和二十年一月一日〜昭和二十年十二月三十一日生まれの寺族  
☆右記以前生まれの未表彰寺族 (敬称略)

教区	寺院名	氏名
2	妙心院	葦名 深雪
4	智福院	亀井 郁子
6	喜松院	村上 幸子
7	善盛寺	根來 きぬ子
11	清泰寺	小池 かち子

(曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者)



大黒さま



◆名前 大黒(尊)天

◆本名 マハーカーラ

【名前の由来】

「マハー」は大きい、「カーラ」は黒の意味です。もともとマハーカーラの身体は黒色で、インドやチベットの大黒さまは今でも黒色系の色をしています。

【特徴】

右手に小槌を持ち、左手で大きな袋を背負っています。

袋の中には、財宝と福德が入っています。体型はふくよかで、柔和な表情をみせ、米俵に乗っています。

【現住所】

昔は、「シヤマシヤナ」という森に住んでいました。現在は、台所などにいます。

【登場する経典】

出典・『大孔雀明王経』  
『南海寄帰内法伝』

【担当】

昔は、インドの神として、戦闘・財福・冥府(死者の国)を司っていました。やがて、仏教にとりいれられ、冥府の担当が外れます。

中国から朝鮮半島、日本への移動にしたがい、戦闘の仕事がほぼなくなり、食物をはじめとした財福が、主な担当となりました。

【モットー】

みんなが豊かでありましように。

【真言】

おん まか きやらや  
そわか

弁天さま



◆名前 弁才天・弁財天

◆本名 サラスヴァティー

【名前の由来】

「サラス」は水、「ヴァティー」は水を維持するものの意味です。古代インドに存在した大河「サラスヴァティー河」を神格化した存在といわれています。意識して妙音天・弁才天とも呼ばれました。なお弁財天とも呼ばれますが、「財」の字を当てられるようになったのは室町時代以降といわれています。

【特徴】

身体的特徴には二系統あります。一つは琵琶を奏でる女神像で、こちらのほうが一般的なイメージでしょう。もう一つは、腕が八本

あり、それぞれの手に罫索(投げ縄) 矛、斧、弓、矢、刀、金剛杵(密教における法具)、鉄輪(遠くへ投げる武器)の武器を持った姿で、知略に長けた軍神のイメージです。

【登場する経典】

『金光明最勝王経』  
『大日経疏』など

【日本における信仰】

七福神の一人とされます。河との関係が深い存在であるため、豊穰をもたらす農耕の神として崇められています。また豊穰は富につながることから金運の神でもあります。さらに弁論・智慧・音楽・福德・戦勝の神としても崇められており多方面においてご利益をもたらすと考えられています。日本では奈良時代には信仰が始まり、神奈川県江島神社・滋賀県竹生島神社・広島県厳島神社の弁天さまは日本三大弁天として有名です。

【真言】

おん そらそばていえい  
そわか

# 寺族物故者供養

謹んで御冥福をお祈り申し上げます



平成三十一年四月一日〜令和二年三月三十一日御逝去

(敬称略)

教区	寺院名	氏名	死亡年月日
13	金藏寺	渡辺節子	令和元年五月二十日
5	長照院	大宮アイ子	令和元年六月二十九日
10	東溪寺	宮崎つや子	令和元年七月一日
5	圓龍寺	高橋きよ	令和元年七月七日
17	龍昌寺	熊谷慶子	令和元年七月十八日
7	龍泉院	佐藤良子	令和元年十月二十日
2	東秀院	白石泰子	令和元年十二月二十二日
9	雲正寺	藤元ひで子	令和二年二月五日
11	津龍院	小野寺さかゑ	令和二年二月十六日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらっしゃいます。

## 義母を偲んで

第九教区

雲正寺寺族

藤元聡美



令和二年二月五日、急性大動脈解離の発症により突然のお別れになりました。

私が嫁いできて十年、東日本大震災、東堂・先住職の相次ぐ遷化など目まぐるしく様々な事がありました。その中でも義母は悲しみ・辛さを受け入れ、寺の為、家族の為に前を向いて過ごしていたように思います。とても明るく親身な義母は「お寺のおばさん」としてお檀家の皆様の信頼が厚く、そして植物を愛し料理

上手な優しいおばあちゃんでした。孫たちも成長し、漸く自分の時間を持つようになってきた矢先の出来事です。

お義母さん。初孫の長男は八月に無事、得度式をしました。楽しみにしていましたね。長女は「おばあちゃんはこうしていたよ」と、すっかり覚えていて、私に教えてくれます。末っ子は幼稚園で敬老の日にプレゼントを作ってきましたよ。

亡くなってから半年以上時は流れましたが、居ないことに慣れず、思い出せば涙が滲むこともあります。気持ちの整理がつくまでにはまだ少し掛かりそうですが、在りし日の義母の行いを顧みながら前に進みたいと思います。

合掌

# 母の背中に感謝

第二教区

東秀院寺族  
白石佐友倫



昨年末に母が旅立ってから九ヶ月余りが過ぎました。

月命日にはいつも墓前にお花を供えて下さる方々に、母の人柄を偲んでおります。

二十数年前、在家から嫁ぎ右も左も分からない私に、これはこうだからと指図したり教えるようなことはなく、嫺やかに微笑みを絶やさず、その背中がいつもお手本でした。自坊では、お檀家さんが手

ぶらでお越しになってもお参りできるよう、玄関の中にお茶とお線香が置いてあります。

「あの方はどなただったかしら？あまりお見かけしない方だわ」と言うとお墓へ行き「〇〇さんの東京のお孫さんですか？」とお聞きする母。

相手の方は驚いて「はい！十年以上前なのに良く覚えていて下さいまして、ありがとうございます。就職したので報告に来ました。」「小学生の頃の面影があったので」「お茶を飲みながらそう返事する母に私も驚いたのが昨日のような遠い昔のような…。」

その方がお帰りになると、「〇〇さんのお兄さんのお墓はここで、仕事は〇〇で他の

親戚は〇〇で、お爺様の葬儀ではこんなことがあって」とよく聞かせてくれました。今ではそんな話の積み重ねが私の礎になっています。

またある日は「田舎に帰る汽車賃がないので、お慈悲を願います」と穴の開いた上衣を着た方が来ました。母は少し渡してお帰り頂きました。私は半信半疑で眉を潜めていましたが「今日は一食でも食べられるでしょうから」と私の思いもお見通しでニコッと。

お檀家さんは母を訪ねて良くお喋りをし、寺族会の皆様にも慕われ、というの良いことしかお話ししていないようですが、思い出すのは母の笑

い声なのです。「あんこはほんと美味しいわ」と悪戯っぽく笑う笑い声。

決して前には出ずとも住職を陰から支え留守を守る姿。争うことは嫌い、だれの前でも裏表無く、いつもその場の空気が平穏に流れていました。

私が嫁いだ時、母は今の私と同じ位の歳でした。今、次の世代に繋ぐ年齢にもなりました。私の背中は何れだけ母に近づけるのでしょうか。

今日もお墓のゴミ拾い。お檀家さんと距離を保ってマスク越しのお喋りを楽しもうと思います。 合掌

# 教 区 だ よ り

〔第5教区〕



和合の心を大切に

第五教区 洞昌寺寺族

奥野 直子

第五教区は柴田町・大河原町・村田町・川崎町・蔵王町・七ヶ宿町・白石市の県南一市六町に二十六ヶ寺在り、寺族会に属する寺院数は二十ヶ寺で構成されています。

年度初めに輪番制で教区総会を開催し、当番寺院のご住職様よりご法話を頂きます。お嫁さんとお姑さん一緒に参加する方もおり、時には子供連れで世代を交えて楽しく賑やかに開催しています。

また、毎年二月頃に新年会のお食事会を行っています。さらに近年では研修会も行い、教区のご寺院様にご指導を頂き坐禅堂での坐禅や地域の葬儀会館の見学

をさせて頂きながら、講師に僧侶であり臨床心理士の先生をお招きし「みとり」について学びました。今年度は梅湯の入れ方やお抹茶の点て方などの研修予定でしたがコロナウイルスにより中止せざるを得ませんでした。

また、毎年「移動研修会」を行っており昨年度は岩手盛岡方面に向かいました。名須川町界隈は寺院や神社が数多く並ぶ寺町で、その中にある報恩寺を参拝しました。特に大きな坐禅堂と羅漢堂内部をぐるりと囲む四百九十九体の羅漢像は圧巻でした。市内では観光タクシーに分乗しての移動でしたので道中も運転手さんから様々な情報を頂き有意義な研修会となりました。

さらに、当教区には五十歳以下の寺族で構成される



「洗心会」があり、梅花流詠讃歌の研修会や子連れでも一緒に楽しめるお数珠作りや坐禅会などの研修を企画し交流を深めています。

今年度はコロナウイルスにより全ての行事が中止となりました。早く平穏な日々になる事を願い、また寺族会での交流を楽しみにしています。

合掌

# 教 区 だ よ り

〔第16教区〕



## 仏縁に感謝

第十六教区 松岩寺寺族

小黒澤 美津枝

十六教区寺族会は、宮城県  
の北東端に位置し、太平  
洋沿岸にある気仙沼市内  
(旧気仙沼、唐桑、本吉)に  
点在する寺院十五ヶ寺の内  
会員二十名から成り立って  
おります。総会後の会食で  
の楽しい語らいは、寺族に  
とって良い勉強の機会でも  
あります。

今までの研修について振  
り返ってみると、

日帰り研修では、東北歴  
史博物館で、アンコールワツ  
トの展示を見学し、古代の  
遺跡に眼を見張りました。  
秋田わらび座では『ブツダ』  
を鑑賞しブツダの生涯、生  
き様を学びました。また帰  
り道大雨が降り、岩手の川  
が氾濫しそうな夜道帰宅し  
たのが思い出されます。

山形東根市の麩を使った  
仏膳メニューの研修では、  
店主の見事な味わいの深さ、  
お麩のおもてなしの巧みさ  
に驚き、早速各自のお寺に  
少しでも取り入れようとし  
ました。函館高龍寺参拝で  
は、御老師様に法話してい  
ただき諸堂拝観し、皆とて  
も感動致しました。

一泊二日の移動研修会  
は、長野岩松院と善光寺参  
拝に行ってきました。この  
時も台風の影響で行けるか  
どうか直前まで懸念された  
のですが、行って来る事が  
できたのです。由緒ある岩  
松院の立たずまい、善光寺  
のお戒壇巡りをしてくる事  
ができ密度の濃い時間を共  
有する事ができました。こ  
のような機会を与えて下さ  
る教区長様始め、教区のご  
住職様方に感謝致しており  
ます。

また先輩から受け継いで

いる施設慰問は、特別養護  
老人ホーム三カ所と児童福  
祉施設一カ所に寄付金を持  
参致しております。

一人でも多くの寺族さん  
が参加し、共に寄り添い高  
め合ってゆける楽しい集い  
を模索中です。コロナの終  
息を願い仏縁に感謝し、く  
れぐれも健康には留意しな  
がら、プラス思考で、一日  
一日を歩んで参りたいと思  
う今日この頃です。 合掌



## 各寺院でのコロナ対策



我妻 有	2 教区	江巖寺
佐藤まさ子	6 教区	福應寺
仙石 洋子	7 教区	湯船寺
山川 裕子	11教区	法昌寺
岸 恵代子	9 教区	三古寺
三宅 仁子	13教区	照源寺
金山多賀子	2 教区	松音寺
藤原 艶子	8 教区	宝泉院
加藤 伸子	12教区	浄音寺
小松 豊実	15教区	長観寺

編集委員一同

今年には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会をはじめ他の行事がほとんど中止となりました。節目となる会報第三十五号はだいぶ内容を変えざるを得ない状況でしたが、このような情勢の中でも原稿の協力を頂き心より感謝申し上げます。一日も早くコロナ禍が終息することを願うばかりです。そして会員の皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

### 編集後記

### 事務局だより

○第二回学習会

— 中止 —

○令和三年度寺族会総会・集会・研修会

— 未定 —

### 役員改選について

令和三年度は役員改選の年にあたります。会長はニブロック（七、八、九、十、十七、十八、二十教区）より選出予定です。当該教区内のご寺族の皆様よりしくお願い致します。

